

県関係団体経営改善計画(2025 年度年次報告)

1 団体の概要(2025年9月1日現在)

名 称	公益財団法人愛知県都市整備協会	担 当 課	建設局土木部建設企画課
所 在 場 所	名古屋市中村区竹橋町 36 番 31 号	電 話	052-756-3320
設 立 年 月 日	1967 年 5 月 1 日(1981 年 4 月 1 日名称変更)	代 表 者	理事長 中島 一
設 立 目 的	愛知県内における都市計画事業、土地区画整理事業その他公共工事の促進、愛知県が設置する都市公園及び港湾施設の円滑な運営及び健全な利用、愛知県都市緑化基金による都市緑化を推進することにより、県土の有効利用及び良好な都市環境の整備促進を図り、もって地域社会の発展及び愛知県民の福祉の向上に寄与することを目的とする。		
主 要 事 業	・都市及びその周辺部における良好な居住環境並びに地域住民のふれあいの場と機会の提供を目的とする都市環境整備事業 ・水辺における安心・安全の確保及びふれあいの場と機会の提供を目的とする港湾環境整備事業 ・愛知県都市緑化基金を活用した民有地の緑化推進事業への助成及び都市緑化に関する普及啓発事業		
Web サイト	https://www.aichi-toshi.or.jp		

2 経営の状況

		2020 年度決算	2021 年度決算	2022 年度決算	2023 年度決算	2024 年度決算
正味財産 増減計算書	経常収益(千円)	2,669,235	2,993,144	3,167,288	3,512,356	3,761,192
	経常費用(千円)	2,692,900	2,948,748	3,224,141	3,462,137	3,710,168
	うち県の委託に係るもの(千円)	1,970,230	2,004,906	2,366,716	2,549,616	2,691,749
	当期経常増減額(千円)	△25,129	42,744	△58,145	49,893	34,396
	当期一般正味財産増減額(千円)	△25,010	42,708	△58,384	48,567	31,718
貸借対照表	資産合計(千円)	3,361,577	3,455,714	3,394,777	3,802,876	3,774,929
	負債合計(千円)	2,010,058	2,061,485	2,058,933	2,418,465	2,358,801
	正味財産合計(千円)	1,351,520	1,394,228	1,335,844	1,384,411	1,416,129
	うち一般正味財産(千円)	1,351,020	1,393,728	1,335,344	1,383,911	1,415,629
県の関与の 状況	県からの借入金残高(千円)	0	0	0	0	0
	県からの補助金(千円)	0	0	0	0	0
	県からの委託料(千円)	1,771,498	1,780,443	1,986,037	2,131,153	2,245,598
	県からの損失補償に係る債務残高(千円)	0	0	0	0	0
	県からの債務保証に係る債務残高(千円)	0	0	0	0	0

3 役職員の状況(2025年3月31日現在)

常勤役員総数(人)	4
うち愛知県退職者(人)	4
うち愛知県出向者(人)	0
常勤役員1人あたりの平均報酬(千円)	7, 359
正職員総数(人)	73
うち愛知県退職者(人)	4
うち愛知県出向者(人)	16
正職員平均年齢(歳)	51
正職員 1 人あたりの平均年収(千円)	7, 793

4 出資の状況(2025年3月31日現在)

基本財産(千円)	500
うち県出えん額(千円)	0
割合(%)	0.0

5 団体の役割と課題

【役割】
○ 公園関係 2006 年度より導入された指定管理者制度により、牧野ヶ池緑地、大高緑地、小幡緑地、新城総合公園、尾張広域緑道、あいち健康の森公園、東三河ふるさと公園、愛・地球博記念公園、油ヶ淵水辺公園の 9 都市公園を指定管理者として管理運営を行っており、利用者の安全・安心の確保、公平・公正な運営、事件・事故への迅速な対応を図るとともに利用者の満足度向上に努め、県民に親しまれ愛される公園づくりに寄与している。
○ 港湾関係 2006 年度より導入された指定管理者制度により、海陽ヨットハーバーの指定管理者として管理運営を行っており、安全・安心、快適に施設を利用できるよう、施設の点検、整備、修繕を適切に行うとともに、施設利用の公正・公平性を確保しつつ、ヨットに対する普及啓発に寄与している。
○ 区画整理関係 1967 年設立当初から培ってきたノウハウやネットワークを活かし、都市計画事業や土地区画整理事業等のまちづくりに関する業務を支援している。
○ 建設技術関係 公共工事に係る市町村職員の技術水準向上を図るための建設技術の普及啓発を行うとともに、市町村が発注する公共工事にかかる技術支援や市町村が管理する道路橋の定期点検を支援している。
○ 財務関係 公益法人として、健全な経営に努めている。

【課題】 ○ 公園関係 公園施設の老朽化及び人口の減少が進んでいることから、公園利用者数の増加対策を講じる必要がある。 ○ 港湾関係 ヨット人口が減少していることから、知名度向上対策を講じる必要がある。 ○ 建設技術関係 安定運営をしていくうえで、現状の利用市町村数の維持が重要となる。 ○ 財務関係 全ての事業が公益目的事業である団体であり、常に収支均衡を保ち収支相償を達成できるかが重要である。 中でも、指定管理事業における各有料施設の安定した利用料金収入の確保が必要不可欠である。

6 経営改善方針（2021年度～2025年度）

○ 公園関係 有料施設の休業日の臨時開業、利用時間の延長、様々なイベント（スポーツ大会、各種教室、各種持込イベントの誘致等）の開催により、公園利用者の増加を図り、利用料金の収入増加に努める。 また、魅力ある公園づくりを進めるため、地域のボランティア団体等と連携・協働した公園の管理運営の取組を推進する。 ○ 港湾関係 ヨット教室等を積極的に開催するなど海事思想の普及を図るとともに、出艇数の増加を図り、利用料金の収入増加に努める。 ○ 建設技術関係 市町村が管理する道路橋の定期点検に係る地域一括発注を利用する市町村数の維持に努める。

7 主要事業・取組の内容

主要事業・取組名	内容（継続・新規の別、実施予定年度）
公園関係 施設休業日の営業、利用時間の延長、その他	○ 休業日の営業： 新城総合公園においては春・夏休み期間、尾張広域緑道及び愛・地球博記念公園においては春・夏・冬休み期間、あいち健康の森公園においては年間を通して休業日となっている月曜日（第1月曜日を除く。愛・地球博記念公園は火曜日。）を臨時開業する。（継続、毎年度） ○ 利用時間の延長： 大高緑地においては庭球場の薄暮利用、野球場の早朝・薄暮利用、小幡緑地においては庭球場の薄暮利用、野球場及び球技場の早朝・薄暮利用、新城総合公園においては庭球場、弓道場、野球場、競技場及び陸上競技場の早朝・薄暮利用、尾張広域緑道においては体育室及び体育館の利用時間の延長、あいち健康の森公園においては球技場の薄暮利用、愛・地球博記念公園においては野球場の薄暮利用を実施する。（継続、毎年度） ○ その他： 大高緑地においては野球場でソフトボール大会（継続、毎年度）、デイキャンプ場を活かしたアウトドアイベント（新規、毎年度）や県営公園で唯一であるゴーカートのPR（継続、毎年度）、小幡緑地においてはトレーニング室を活かした初心者向け安全講習会（新規、毎年度）、新城総合公園においては庭球場でテニス教室、弓道場でアーチェリー教室や近隣宿泊施設と連携したスポーツ合宿プランの提供（継続、毎年度）、尾張広域緑道においては体育室で卓球教室やハンギングバスケット教室（継続、毎年度）、あいち健康の森公園においては体育館でスポーツ教室、親子でのベビーゴルフ場利用の誘致（継続、毎年度）、愛・地球博記念公園においては野球場での少年野球大会、茶室での月例茶会、茶室コンサート、アイススケート場でのスケート教室（継続、毎年度）を引き続き開催する。 ⇒指標①:愛・地球博記念公園の利用者数 継続 ⇒指標②:愛・地球博記念公園以外の公園の利用者数 継続 ○ 9 都市公園の指定管理者として、公園利用者の増加を図るとともに、牧野ヶ池緑地、東三河ふるさと公園、油ヶ淵水辺公園を除く 6 都市公園については野球場、庭球場、スケート場等の有料施設の利用料金の増収を図り安定運営に努める。（継続、毎年度） ⇒指標⑤:利用料金収入 財務指標 新規
港湾関係 ヨット教室等の開催、その他	○ 初心者を対象としたビギナーズコース、技量の向上を目的としたスキルアップコース等のヨット教室の開催、夏休みに小学生を対象としたヨット体験乗船イベントや一般参加によるデインギー型ヨットとクルーザー型ヨットの体験乗船会、冬季にミッドウインターレガッタを開催するなどヨット人口の裾野を広げていく。（継続、毎年度） ○ 大学生の新入部員を対象としたヨット体験会開催（新規、2024 年度から） ⇒指標③:海陽ヨットハーバーの年間出艇者数 継続 ○ クラブハウス東西棟会議室のヨットに関連する目的によるもの以外の利用を促進させ、これらの施設を利用したイベント等の開催や誘致を行うことで知名度向上を図っていく。（新規、毎年度） ⇒指標⑤:利用料金収入 財務指標 新規

建設技術関係 道路橋定期点検 の地域一括発注利用 市町村数の維持 あいち建設情報 共有システムの運用	○ 市町村が管理する道路橋における維持管理・更新に係る点検・診断、評価、計画・設計、修繕等といった一連の業務プロセスを、利用状況、重要度等を踏まえ、効果的かつ的確に行い、また、学識者等で構成する「診断結果評価会議」の審議を経ることで適切な診断が得られるよう、協会に依頼する市町村を地域ごとに一括発注により業務を行い、過去の点検における膨大なデータ及びノウハウを活用することで市町村への支援を継続していく。(新規、毎年度) ⇒指標④:道路橋定期点検の地域一括発注利用市町村数 新規 ○ あいち建設情報共有システムは、5 年間の運用実績と利用者からの意見を踏まえた改良を行い、2025 年 1 月に運用を開始した。今後は、受発注者間の生産性向上や業務の効率化が一層図られるよう、引き続きシステムの円滑な運営に努めていく。(継続、毎年度)
区画整理関係	○ 人件費を含む固定費(費用のうち委託費を除く)は、圧縮してきており、今後も引き続き経費削減に努める。また、支援業務については、ここ数年減少傾向となっているが、まちづくりアドバイザーの派遣や、まちづくりの計画に係る調査研究や資料作成を行い積極的に地域のまちづくりを支援する「まちづくり計画推進業務」を活用し、まちづくり事業の初期段階から積極的な支援に努め、市町等からの要望に着実に対応していくことで、支援業務の新規受注に繋げ、支援地区数の現状維持を図る。(継続、毎年度)

8 指標と数値目標 (計画期間:2021年度～2025年度)

指標	年度	2019 実績	2020 実績	2021	2022	2023	2024	2025	目標値の説明
				上:目標値 下:実績値	上:目標値 下:実績値	上:目標値 下:実績値	上:目標値 下:実績値	上:目標値 下:実績値	
①愛・地球博記念公園の利用者数(千人) 継続		1,568	865	1,585	1,600	1,616	1,632	1,647	2017 年度から 2019 年度の実績平均の 5%増 代表的な公園施設
				1,001	1,823	2,620	2,941	—	
②上記以外の公園の利用者数(千人) 継続		5,124	4,475	5,180	5,234	5,402	5,459	5,515	2017 年度から 2019 年度の実績平均の 2%～10%増
				5,325	5,039	5,229	5,249	—	
③海陽ヨットハーバーの年間出艇者数(人) 継続		10,324	8,132	10,426	10,529	10,633	10,736	10,839	2019 年度実績の 5%増
				13,475	10,165	11,054	11,795	—	
④道路橋定期点検の地域一括発注利用市町村数(自治体数) 新規		18	14	18	18	18	18	18	2019 年度実績の維持
				21	23	22	15	—	
⑤利用料金収入(千円) 財務指標 新規		385,121	269,543	385,506	453,058	547,506	598,130	526,469	公園は 2017 年度から 2019 年度の実績平均、海陽ヨットハーバーは 2019 年度の実績とし、全体の実績の 0.6%増
				313,664	395,521	491,853	517,782	—	

《指標・目標値設定の考え方》

- 指標①～③:公園の利用者数及び海陽ヨットハーバーの年間出艇者数の目標値については、指定管理者指定申請書「利用促進に関する取組」に記載した内容と同じ数値である。
- 指標②:指標の「上記以外の公園」とは、牧野ヶ池緑地、大高緑地、小幡緑地、新城総合公園、尾張広域緑道、あいち健康の森公園、東三河ふるさと公園、油ヶ淵水辺公園の 8 県営都市公園。但し、油ヶ淵水辺公園は、指定管理期間が 2023 年度に更新されたため、2023 年度以降の目標値を修正した。(2021 年度の実績の 2%増(2027 年度までに 10%増))
- 指標⑤:利用料金収入には、有料施設が存在する大高緑地、小幡緑地、新城総合公園、尾張広域緑道、あいち健康の森公園、愛・地球博記念公園、海陽ヨットハーバーの 7 施設が含まれている。但し、愛・地球博記念公園の利用料金収入目標値については、2024 年度実績値を踏まえ、上方修正した。

9 経営改善計画に対する県所管局の意見

- 指定管理の対象施設(都市公園及びヨットハーバー)について、指定管理者の計画どおり適切に管理運営が行われるよう、指導していく。
- 区画整理事業及び建設技術について、都市整備協会の計画どおり支援を利用する市町村数が確保されるよう、指導していく。
- 財務状況について、コスト削減や経理事務の効率化が図られるよう、指導していく。

10 目標達成状況の検証・今後に向けた取組

- 指標①:ジブリパーク 5 エリアが全面開園したこととこれまで開催してきた持込イベントが順調に開催出来たことにより利用者数が大幅に伸び、目標値を上回った。2025 年度も、愛・地球博 20 祭の開催により、利用者数の増加に取り組んでいく。
- 指標②:あいち健康の森公園 30 周年記念イベント等と東三河ふるさと公園ふるさと満喫まつり等の自主イベントの開催及び持込イベントの開催などにより前年の利用者数より増加した。一方で 7 月から 9 月に酷暑が続いたため牧野ヶ池緑地や油ヶ淵水辺公園等では利用者数が減少し、全体としては利用者数が目標値を下回った。2025 年度は、新城総合公園 40 周年記念イベントを開催することや新規イベントの開催周知を図ることにより利用者数の増加に取り組んでいく。
- 指標③:中部の大学ヨット部新入生向けの体験乗船会や地元の小学生を対象とした体験乗船会など特色のあるイベントの開催により、年間出艇者数が目標値を上回った。2025 年度も、大学生ヨット部員を対象としたイベント等を開催し、大学ヨット部を活性化することとアジア大会会場となる当施設を積極的に広報することで、ヨット人口の底辺拡大を図っていく。
- 指標④:道路橋定期点検は 5 年に 1 回実施することが定められており、年度により利用市町村数の増減がある。2024 年度は跨線橋のみを点検依頼する市が減少したことから、目標を下回る結果となった。技術職員が不足している市町村に対して意向調査を行い、利用市町村数の確保に努める。

- 指標⑤:愛・地球博記念公園では、ジブリパークの 5 エリア開園による駐車場利用料金収入増を見込んでいたが、リニモ等公共交通機関の利用者及び駐車場の 90 分以内無料利用者が想定以上に多かったことにより、駐車場利用料金収入等が目標値を下回った。
2025 年度は、愛・地球博 20 祭の開催及び SNS を活用したイベントの周知などにより、駐車場利用料金等の収入増加に取り組んでいく。

11 目標達成状況に対する県の評価・対応

- 愛・地球博記念公園の利用者数及び利用料金収入については、今後も引き続き、目標値が達成できるようイベント開催や、ジブリパーク来訪者をターゲットとした施設利用の促進などに努めてもらいたい。
- 愛・地球博記念公園以外の公園の利用者数については、酷暑の影響により一部の公園で利用者数が減少し、目標値を下回ってしまった。今後、目標の達成ができるよう、イベントの企画開催等利用促進に努めてもらいたい。
- 海陽ヨットハーバーの年間出艇者数については、今後も引き続き、目標値の達成ができるようイベント開催や、アジア大会会場として積極的に広報することでヨット人口の底辺拡大を図ってもらいたい。
- 道路橋定期点検の地域一括発注利用市町村数については、年度により利用市町村数の増減があり、今年度は目標値を下回ってしまった。今後、目標の達成ができるよう、市町村への技術支援のアピールに努めてもらいたい。また、積極的に地域のまちづくりを支援する「まちづくり計画推進業務」を活用するなどまちづくりの知識や技術を還元し、市町等からの要望に著実に対応していくよう努めてもらいたい。